

令和 2 年 7 月 6 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K00444

研究課題名(和文) ラーニングcommonsをマネジメントする「教育コーディネーター」養成プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of an education coordinator training program to manage the learning commons.

研究代表者

上岡 真紀子 (Ueoka, Makiko)

帝京大学・学修・研究支援センター・准教授

研究者番号：90723156

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：大学図書館のラーニングcommons(以下、LC)をより発展させる図書館員の人材像について知見を得ることを目的に、北米の事例を調査した。その結果、評価の高い事例では、LCの運営担当者として、全学的教育改革に参画する情報リテラシー教育の専門家、最先端の技術を取り入れて教育・学習環境を継続的に最適化する建築専門家、アントレプレナーシップ支援など大学の重点政策に関する専門家等が配置され、単に新たな学習観に基づいた学習環境を実現するというだけでなく、LCの設置を契機として、図書館の活動を大学全体の教育戦略や改善活動と結びつけ位置付ける役割と能力が重視されていることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で明らかにした、ラーニングcommonsの設置を契機として、図書館の活動を大学全体の教育戦略や改善活動と結びつける役割と能力をもつ専門的図書館員のあり方は、日本のラーニングcommonsの今後の発展の方向性を示した点で意義がある。また、本研究で検討したカレッジ・研究図書館協会による教授・学修担当図書館員の新たな能力基準は、今後日本においても求められる教授・学習に関わる図書館員の能力基準策定の指針となる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to find out what kind of librarians are needed to develop the learning commons (LC) of university libraries in North America. As a result, it was found that in the highly evaluated cases, information literacy specialists who participate in university-wide educational reforms, architecture specialists who continuously optimize the teaching and learning environment by incorporating the latest technology, and experts on priority university policies such as entrepreneurship support were assigned to the management of the LC. The establishment of the LC not only created a teaching and learning environment based on a new perspective on learning, but also emphasized the role and ability to link the activities of the library to the educational strategies and improvement activities of the university as a whole.

研究分野：図書館情報学

キーワード：大学図書館に ラーニングcommons 事例研究

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

高等教育改革において、教授から学習への転換が求められるようになってから久しい。大学図書館では、この転換を体現するものとして、学生の主体的な学習を実現する場であるラーニングコモンズが設置され、機能集約的で全学的な学内改革の実現に貢献する場として期待されている。

今後、これらのラーニングコモンズをさらに機能させるためには、そこでの教育・学習活動を、学内の日常的・継続的な学内改革や改善活動と連動させ、各大学が挙げる教育目標を実現し体現する場として、より明確に位置づけていくことが求められる。そのためには、大学図書館の中に、教員、職員、学生はもとより、学内の様々な専門家と協働して、学内の教学改革の動きとラーニングコモンズの活動を結び付け、大学図書館の教育・学習支援活動全体のマネジメントを行う、図書館における教授・学習支援の専門的人材の配置が必須となる。しかし、日本においては、こうした専門的職種の必要性は認識されているものの、その人材像は抽象的に述べられるにとどまっている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、大学図書館における教育・学習支援活動をマネジメントし、大学内のその他の専門家との協働をコーディネートする、新たな専門職種である「教育コーディネーター」について、先行する米国の事例を対象に、人材モデル、および養成プログラムのあり方を明らかにすることを目的とする。具体的な問いは、

- (1) 大学図書館における「教育コーディネーター」は、どのような学内改革プログラムやプロジェクトにおいて、いかなる役割を担い、どう機能しているのか
- (2) それらの役割を果たすために、どのような知識や能力が活用されているのか
- (3) これらの人材供給のために、米国の大学図書館界は教育担当図書館員の能力開発をどう支援しているのか

である。

3. 研究の方法

研究目的(1)(2)については、文献調査、および米国の専門会議への参加により、教授・学習改革プロジェクトの情報を収集した上で、それらの中で特に大学図書館員が活躍している事例を抽出し、現地訪問調査および、関係者への聞き取り調査を行った。教授・学習改革プロジェクトの事例調査対象としたのは、トリニティ大学とパデュー大学である。

研究目的(3)については、当初、関係者へのインタビューで言及された米国図書館協会のカレッジ・研究図書館協会が提供している教育担当図書館員向けの研修プログラムを調査対象とする予定であったが、同協会が教育担当図書館員の能力リストの改訂版を公開したことに伴い、研修プログラムも改訂作業に入ったため、研究計画の大幅な変更を余儀なくされた。そのため、新たに、米国図書館協会が想定する教育担当図書館員の人材像がどう変化したのかについて、公開された文書の内容を検証した。

4. 研究成果

(1) 全学的改革プロジェクト・プログラムの内容とプログラムにおける教育担当コーディネーターの役割

トリニティ大学：Expanding Horizons

トリニティ大学の Expanding Horizons は、南部大学学校協会によるアクレディテーションの再認定時に求められる質向上計画として計画・実施されたプロジェクトである。プロジェクトの目標は、全学生に情報リテラシーを身につけさせることとされ、情報リテラシーを学習成果として全カリキュラムに統合することが目指された。計画では、1年次から4年次までを通じて、情報リテラシーが科目のレベルに応じて、強調点を変えながら繰り返し学ばれるように設計され、その実現のために、情報リテラシーへの共通理解醸成のためのシンポジウム、情報リテラシーを学習成果として組み込むための到達目標の設定などのカリキュラムと授業デザイン、評価を支援する、学科単位の教員向けワークショップ等が実施された。

このプロジェクトにおいて図書館員は、情報リテラシー教育の専門家として、プロジェクトの企画委員会と実行委員会を率いるとともに、理事や学科長への説明、シンポジウム・ワークショップの企画と実施、報告書作成を担当した。

パデュー大学：IMPACT

パデュー大学の IMPACT (Instruction Matters: Purdue Academic Course Transformation) は、2011年より開始された全学的科目改訂プログラムである。プログラムでは、講義中心の大規模授業や基礎科目における学生の成功を改善するという指標をあげて、より学生を主体的な学習に従事させる学習環境を全学的に作り出すことが目標とされている。この目標を実現するため、1) アクティブラーニング教室やラーニングコモンズなどの学習者中心の学習を支援するための場所の設置、2) 教員がこれらの新しい施設と ICT 技術を活用して、学習理論や教授理論に基づいて、授業を学習者主体に改訂するための能力開発プログラムの提供、の2つが並行して行われている。

このプログラムには3名の図書館員が関わっている。1名は、教員や他の専門家とともにプログラムの運営委員会に参加し、アクティブラーニング教室のデザインを主導し、施設面から全学のアクティブラーニング化に関わった。もう1名は情報リテラシーコーディネーターの肩書で、ファカルティディベロッパーや評価の専門家とともに教員向けの授業改訂プログラムのカリキュラム開発に参加するとともに、プログラムでは講師を担当した。もう1名はラーニングデザインスペシャリストの肩書で、教員向けの授業改訂プログラムにファシリテーターとして参加し、インストラクショナルデザインの知見に基づいて、教員の科目の到達目標設定や、アクティブラーニングを実現するための課題作成、評価計画の作成を支援した。

(2) 教育コーディネーターに求められる知識と能力

いずれの事例においても、大学図書館における教育コーディネーターは、大学における「情報リテラシー教育の専門家」として役割を担い、機能していた。両校のコーディネーターのジョブディスクリプションとインタビューから明らかとなった、教育コーディネーターに必要なとされる知識と能力は、

1) 情報リテラシー教育に関する専門知識と教授能力

2) 到達目標の設定、課題作成、評価法等、インストラクショナルデザインと教授に関する知識と能力

3) 理事や教員、その他の学内の専門家たちと大学の教育目標や教育改善について話し合うための、評価やアクレディテーション等、高等教育に関する知識、およびコミュニケーション能力

4) プロジェクトを企画・推進するためのリーダーシップとマネジメント能力

5) 取り組みの成果を分析・評価し、論文や報告書を執筆する能力

である。

コーディネーターの能力に関しては、すでにカレッジ・研究図書館協会が2007年に『インストラクションライブラリアンとコーディネーターのための技能基準(Standards for proficiencies for instruction librarians and coordinators)』¹⁾を公開している。この文書では、大学図書館における教育担当図書館員として、学習理論やインストラクショナルデザインに基づいて適切に授業を行い、かつ授業や授業改善において教員と協働する一般の教育担当図書館員と、これらの図書館員を代表して、全学レベルのアクレディテーション委員会やファカルティディベロップメントプログラムに参加する「コーディネーター」が区別され、職階に基づいた2種類の人材像が示されていた。その際、コーディネーターには一般の教育担当図書館員に求められる能力も求められるとされており、より高度な人材と位置付けられている。本研究で対象とした実際のコーディネーターも、基準に見られる一般の教育担当図書館員に求められる知識・能力とコーディネーターに求められる知識・能力の両方を活用しており、高度な知識と能力が求められる人材であることが明らかとなった。

(3) カレッジ・研究図書館協会が提示した教育担当図書館員の新たな人材像

米国図書館協会が『インストラクションライブラリアンとコーディネーターのための技能基準』で示した一般の図書館員と管理者レベルの図書館員という2種類の人材という考え方は、研修プログラムにも同様に見られる。カレッジ・研究図書館協会は、教育担当図書館員の能力開発プログラムとして、一般の教育担当図書館員を対象としたインストラクションプログラムと、管理者レベルを対象としたマネジメントプログラムの2種類の研修プログラムを提供してきた。インストラクションプログラムが、主として教育を適切に行うためのインストラクショナルデザインや評価法等を扱うのに対し、マネジメントプログラムでは、高等教育や教育改革の動向、アクレディテーション基準やプログラム評価、プロジェクトマネジメントなどが扱われてきた。

これに対し、本研究の遂行中の2017年に、カレッジ・研究図書館協会から、『インストラクションライブラリアンとコーディネーターのための技能基準』に変わるものとして、新たに『ティーチングライブラリアンの役割と強み(Roles and strengths of Teaching Librarians)』²⁾が公開された。ここで教育担当図書館員の役割として挙げられたのは、提唱者(advocator)、コーディネーター、インストラクショナルデザイナー、リーダー、教師、ティーチングパートナー、生涯学習者の7つである。

教育担当図書館員は、その時々々のポジションや文脈に応じて、これらの役割のいくつか、またはすべてを担うとされている。また教育担当図書館員は、大学の規模や方針に基づいて、1名の場合も複数名存在する場合もあり、複数名の場合には、ここで示されたうちのいずれかの役割と強みに特化した人材によって構成されるとされている。

従来の『インストラクションライブラリアンとコーディネーターのための技能基準』が、当時の高等教育改革の下で大学図書館界が取り組んでいた、情報リテラシーのカリキュラムへの統合を担う「コーディネーター」の人材供給と配置を意図して作成されていたのに対し、『ティーチングライブラリアンの役割と強み』では、より柔軟に、各大学の方針やその時々々の多様な文脈に応じて、より特化した強みを持つさまざまな異なる人材を供給し、配置することが目指されて

いると言える。

このことから、今後の教育担当図書館員の能力開発においては、情報リテラシーのカリキュラムへの統合のような大学図書館界が目指す方向性に沿った人材を育成するというよりも、各大学における教育に関する課題解決への貢献に焦点を当てた能力開発プログラムの開発が目指されると考えられる。

<引用文献>

- 1) Association of College and Research Libraries. Standards for proficiencies for instruction librarians and coordinators,2007.11p.
- 2) Standards and proficiencies for instruction librarians and coordinators revision taskforce. “Roles and strengths of teaching librarians,” College and Research Libraries News, July/August, 2017, p.364-370.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 上岡真紀子	4. 巻 10
2. 論文標題 全学的教育の質的改善プログラムにおける図書館員の役割：パデュー大学のIMPACTプログラムをもとに	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 帝京大学学修・研究支援センター論集	6. 最初と最後の頁 19-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 上岡真紀子
2. 発表標題 全学的教育改善プロジェクトにおける図書館員の役割：パデュー大学IMPACTプロジェクトを事例として
3. 学会等名 日本図書館情報学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上岡真紀子
2. 発表標題 全学的教育改善プログラムにおける情報リテラシーコーディネーターの役割：トリニティ大学の事例
3. 学会等名 日本図書館情報学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上岡真紀子
2. 発表標題 米国の大学図書館界にみる教育担当図書館員に期待される役割と能力の変化：能力基準にみるビブリオグラフィックインストラクションから情報リテラシーへの転換
3. 学会等名 日本図書館情報学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上岡真紀子
2. 発表標題 図書館と図書館員は教授・学習支援にどのように関わっていくか
3. 学会等名 情報メディア学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 根本彰, 齋藤泰則	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本図書館協会	5. 総ページ数 349
3. 書名 レファレンスサービスの射程と展開	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	土持 ゲーリー法一 (Tsuchimoto Hoichi) (00422064)	京都情報大学院大学・大学院・教授 (34323)	
連携研究者	竹内 比呂也 (Takeuchi Hlroya) (10290149)	千葉大学・大学院人文科学研究院・教授 (12501)	